

公益社団法人 日本地震工学会 第6回理事会議事録

A. 日 時 : 2013年12月18日(水) 17:00~20:00

B. 場 所 : 建築会館 308会議室

C. 出席者 : (会 長) 安田進
(副 会 長) 当麻純一、山崎文雄、福和伸夫
(担当理事) 福喜多輝、新海元、和泉信之、加藤研一、松田隆、年縄巧、富田孝史、
久田嘉章、古屋治、鳥井信吾、境茂樹、田村敬一、塚本良道
(監 事) 五十嵐克哉、
(欠 席) 矢代晴実、清野純史、横井俊明、田蔵隆
オブザーバー出席 : 嶋原毅事務局長、吹野美絵

D. 提出資料

- 資料 06-01 第5回理事会議事録確認(新海理事)
- 資料 06-02 会務報告(福喜多理事)
- 資料 06-03 会計報告(矢代理事)
- 資料 06-04 選挙管理委員会からの報告(次期会長候補選挙)(加藤理事)
- 資料 06-05 日本学術会議「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」シンポジウムについて
(当麻副会長)
- 資料 06-06 入退会者(加藤理事)
- 資料 06-07 共催・後援・協賛等(新海理事)
- 資料 06-08 2013年日本地震工学会年次大会、国際シンポジウム表彰案(古屋理事、清野理事)
- 資料 06-09 事務処理規程・公印管理程について(新海理事)
- 資料 06-10 日本地震工学シンポジウム運営積立金取崩しについて(矢代理事、和泉理事)
- 資料 06-11 会員制度について(加藤理事、松田理事)
- 資料 06-12 受託研究の受け入れ・実施体制について(福喜多理事)
- 資料 06-13 表彰について(福喜多理事)
- 資料 06-14 2013年度活動報告、2014年度活動計画、2014年度予算の作成について
(福喜多理事、新海理事)
- 資料 06-15 国際委員会からの報告(横井理事)
- 資料 06-16 会誌編集委員会からの報告(久田理事)
- 資料 06-17 論文集編集委員会からの報告(英文論文集)(年縄理事)
- 資料 06-18 第1回震災対策技術展、大阪開催について(境理事)
- 資料 06-19 情報コミュニケーション委員会からの報告(非会員のWebページ閲覧について)
(富田理事)

E. 議題

E 1. 報告事項

1) 議事録確認 第5回理事会議事録確認（新海理事、資料 06-01）

新海理事より資料 06-01 を用いて、「第5回理事会議事録」について説明があり、本内容にて了承された。

2) 会務報告（福喜多理事、資料 06-02）

福喜多理事より、資料 06-02 を用いて、11月14日～12月18日までの「会務報告」がされた。

3) 会計報告（矢代理事、資料 06-03）

矢代理事より資料 06-03 を用いて、4月1日～11月30日までの決算額と12月1日から平成26年3月31日までの決算見込みについて、以下のような「会計報告」がされた。

- ・今年度の決算見通しでは、支出が多くなる見通しであり、前年度の繰越金を使っても赤字となるため、手元資金が必要である
- ・次年度は、東日本大震災報告書(共通編)が3月に発行されるため、6月頃から売り上げが計上される見込みではあるが、固定費以外を更に絞らなければならない。

これに対して以下のような意見があった。

- ・調査研究事業費については、印刷費と会議費に限定するといった考えもある。
- ・元会長・副会長をはじめとする理事経験者も含めて、広く学会への寄付金の働きかけを行ったらどうか。
- ・来年度の事業計画は作成段階で身の丈に合った活動に絞るべき。
- ・会費の値上げも検討すべきではないか。

これらの意見を踏まえ、当麻副会長、会計部会、総務部会にて収支改善策の検討を進めることが確認された。

4) 業務執行理事業務報告（会長、副会長）

会長、副会長より6月～11月の業務について、理事会規則第26条および第27条職務権限規程に基づいて業務を適正に執行している旨が報告された。

「定款第22条4 会長、副会長及び専務理事は、毎事業年度に4箇月を超える間隔で年に2回以上、自己の職務の執行の状況を、理事会に報告しなければならない。」

の定款による、平成24年6月1日から平成24年11月末日における、職務執行状況の報告を以下に受けた。

安田進会長：

業務執行理事の職務権限規程第4条における職務執行を行ったので報告する。

当麻純一副会長：

業務執行理事の職務権限規程第 5 条における職務執行を行ったので報告する。

山崎文雄副会長：

業務執行理事の職務権限規程第 5 条における職務執行を行ったので報告する。

福和伸夫副会長：

業務執行理事の職務権限規程第 5 条における職務執行を行ったので報告する。

なお、専務理事は指名されていない。

以上の報告を受け了承された。

5) 選挙管理委員会からの報告（次期会長候補選挙）（加藤理事、資料 06-04）

加藤理事より資料 06-04 を用いて、次期「会長候補」選挙について経過が報告された。

なお、日本地震工学会選挙規程の第 4 条について加藤理事が修正案を作成し、3 月の理事会にて審議を行うことが確認された。

6) 日本学術会議「南海トラフ地震に学界はいかに向き合うか」シンポジウムについて

（当麻副会長、資料 06-05）

当麻副会長より資料 06-05 を用いて、12 月 2 日(月)に開催された日本学術会議のシンポジウムの概要が紹介された。

E 2. 議 案

7) 入退会者（加藤理事、資料 06-06）

加藤理事より資料 06-06 を用いて、「入退会者」の報告がされ、2013 年 12 月 18 日現在、入会者は正会員 2 名、学生会員 11 名との報告があり、承認された。

以上の結果、会員数は、名誉会員 28 名、正会員 1,132 名、学生会員 167 名で、現在総数は 1,327 名、法人会員 93 社となることが確認された。

8) 共催・後援・協賛等（新海理事、資料 06-07）

新海理事より資料 06-07 用いて、以下に示す後援(2 件)、協賛(1 件)の報告があり、承認された。

後援依頼：「地盤の地震応答解析入門講習会」

（主催：地盤工学会）

後援依頼：国際構造工学会 2015 春季大会

（主催：IABSE 日本グループ）

協賛依頼：安全工学シンポジウム 2014

（主催：日本学術会議総合工学委員会）

9) 2013 年日本地震工学会年次大会、国際シンポジウム表彰案（古屋理事、清野理事、資料 06-08）

古屋理事より資料 06-08 を用いて、選考の評価項目に基づき 2013 年日本地震工学会年次大会の

優秀論文発表者として7名の候補者を選任したことが報告され、承認された。

また、国際シンポジウムについては昨年度と同様の選考方法にて5名選出されたことが報告され、承認された。

10) 事務処理規程・公印管理規程について（新海理事、資料 06-09）

新海理事より資料 06-09-1 を用いて、事務処理規程(案)について説明がされ、以下の意見があった。

- ・第14条第2項「複数年度」の記載があるが、JAEEは単年度契約だけであり、実態と乖離していないか。
- ・第16条の記載では競争入札には過去に取引実績のある業者に限定され、新規参入者を拒む内容に読み取れるので、「原則として」等の追記をしてはどうか。

これらの意見を踏まえ、新海理事と事務局にて他学会の規程を含め、再度内容を確認することになった。

また、資料 06-9-2 を用いて公印管理規程(案)の説明、及び稟議書フォーマットは総務部会と事務局で策定したことを報告し、承認された。

11) 「日本地震工学シンポジウム運営積立金」取崩しについて（矢代理事、和泉理事、資料 06-10）

和泉理事より資料 06-10 を用いて、日本地震工学シンポジウム運営積立金規程に基づき、第14回日本地震工学シンポジウムに向けて400万円の取崩し申請の説明があり、申請内容が承認された。

E 3. 懇談事項

12) 会員制度について（加藤理事、松田理事、資料 06-11）

加藤理事より資料 06-11-1 を用いて、「会員制度見直し」について説明がされ、これまで議論された新会員種別を導入した場合の会費収入に与える影響評価のシミュレーション結果について以下の説明がされた。

- ・提案された会員制度では、正会員よりも会費の安い種別が多いため、会員の種別を増やすと収入減となる可能性が大きい。
- ・会員種別の変更に伴うシステム変更費用の出費も避けられない。
- ・65歳以上の正会員の割合が高く、シニア会員が増えると収入減に直結する。
- ・定年理由の退職者よりも正会員入会者が多いことを考えると、現状の会員種別でも会費収入を維持できる可能性がある。

これを受け、会員種別は現状維持とすることが最終確認された。

また、併せて以下の内容についても実施することが確認された。

- ・他学会の実態も踏まえ学生会員費を 1000 円から 3000 円に引き上げる。
- ・土木学会にあるプレミアム会員等を参考にした会員種別の検討を進める。
- ・JAEE 大会発表者の共著者で非会員の方に対して、入会案内のパンフレットを送付する。

松田理事より資料 06-11-2 を用いて「公開講座/出前授業」について説明がなされ、申込方法申込書記入項目、経費負担、申込先の申込要領が了承され、本内容を HP に掲載することが確認された。

加藤理事より資料 06-11-3 を用いて年次大会、講演会等で配布する JAEE を紹介するチラシについて説明がされた。組織の見直し、写真の入替えを会員部会・総務部会で行い、2 月の「研究委員会講演会」「震災予防講演会」で配布できるように作業を進めることが確認された。

13) 受託研究の受け入れ・実施体制について（福喜多理事、資料 06-12）

福喜多理事より資料 06-12 を用いて、受託研究の受け入れ・実施体制について説明がされ、「受託研究受入・実施の流れ」、「受託研究における受入体制」について了承された。

「受託研究取扱細則」については、受託研究経費が他学会と比較して低いことから再度経費の検討を行うこととなった。

14) 表彰について（福喜多理事、資料 06-13）

福喜多理事より資料 06-13 を用いて、表彰、名誉会員推挙、感謝状の選考過程について確認された。

15) 2013 年度活動報告、2014 年度活動計画、2014 年度予算の作成について

（福喜多理事、新海理事、資料 06-14）

福喜多理事、新海理事より資料 06-14 を用いて、2013 年度活動報告、2014 年度活動計画、2014 年度予算の作成について説明がされ、各委員会を所管する理事が資料を取り纏め、2014 年 1 月 20 日(月)までに指定先に提出することが確認された。

16) 若手研究交流会（仮称）について（当麻副会長）

当麻副会長より、若手研究交流会（仮称）について説明がされ、年明けに若手 15 名（建築、土木、機械、地震分野）を集め、地震工学会の将来の絵姿や夢を語る場を企画していることが紹介された。

17) 国際委員会からの報告（横井理事、資料 06-15）

資料 06-15 を用いて、国際委員会で議論されている国際化に向けた提案があった。和文誌（論

文集)における図の説明文の英語化を義務化するかどうかについて、次回理事会にて再度検討することとなった。

18) 会誌編集委員会からの報告 (久田理事、資料 06-16)

久田理事より資料 06-16 を用いて、会誌 21 号(2014 年 2 月)の進捗状況、及び会誌 22 号(2014 年 6 月号)の巻頭言、特集について報告がされた。

19) 論文集編集委員会からの報告 (英文論文集) (年縄理事、資料 06-17)

年縄理事より資料 06-17 を用いて、英文論文集に向けての進め方について報告がされ、英文化依頼の方針、今後のスケジュール、和文論文の英文化依頼文の内容が確認された。

20) 第 1 回震災対策技術展、大阪開催について (境理事、資料 06-18))

境理事より資料 06-18 を用いて、第 1 回「震災対策技術展」大阪(会期:2014 年 6 月 17 日(火)、18 日(水) 会場:大阪コングレコンベンションセンター)について説明がされ、大会実行委員会から日本地震工学会で講演会等の開催実施に関して 2014 年 3 月末頃までに企画書を提出するよう要請があった旨の報告がされた。

21) 情報コミュニケーション委員会からの報告 (非会員の Web ページ閲覧について)

(富田理事、資料 06-19)

富田理事より資料 06-19 を用いて、情報コミュニケーション委員会として会員特典である JAEE NEWS (メールニュース)を非会員に配信することは好ましくないとの結論に至ったとの報告がなされ、了承された。

次回予定:平成 26 年 3 月 13 日 理事会 17:00 より

(場所:建築会館)

記録担当:総務理事 新海 元